

# 3 学年 2 組 社会科学学習指導案

授業日 平成24年 7 月12日 (木) 3 校時

授業者 教 諭 大矢 和憲

会 場 3 年 2 組教室

## 1 単元名 「進め！スーパー調査隊」

## 2 本単元の価値

本単元は、学習指導要領 3 学年及び 4 学年の内容(2)ア、イに準拠して設定したものである。

(2) 地域の人々の生産や販売について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。

ア 地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること。

イ 地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などのかかわり。

(内容の取扱い)

(2) 内容の(2)のイについては、次のとおり取り扱うものとする。

イ 「販売」については、商店を取り上げ、販売者側の工夫を消費者側の工夫と関連付けて扱うようにすること。

そのうち、「販売」についての学習が本単元である。

本単元では、主に地域の人々の販売に見られる仕事の特色と自分たちの消費生活とのかかわりについてとらえさせる。そこで、大手スーパーマーケット「原信関屋店」を採り上げ、スーパーマーケット（以下：スーパー）の特色に迫る学習活動を展開する。

スーパーは家庭で最も多く買い物に行くところであり、子どもにとっても、スーパーで買い物をするということは生活上当たり前になっており、消費生活においてなくてはならない存在である。しかし、子どもは、家族を含めた多くの人々がスーパーで買い物をする理由や、スーパーが消費者のことを考えた販売の工夫をしていることなど販売者や消費者の工夫については気付いていない。

スーパーでは消費者のことを考えて様々な工夫を行っているが、中でもスーパーの一番の特色は品揃えが豊富で、多くの商品の中から消費者がほしい物を選択して購入することができるという点である。販売者の立場からすると、常に消費者がほしい量目の品揃えをしたり、売れ行きや残量を見て売り方を変えたりするなどの工夫をしている。一方、消費者の立場からすると、多くの商品の中から自分に合った（ほしい）商品を選択する工夫をしている。販売者にとっても消費者にとっても、「品揃え」が重要なのである。

このように、スーパーを採り上げて学習することで、スーパーで働く人々が行っている工夫と、家族を含めた多くの人々がスーパーで買い物をする理由とを関係付けてとらえられることができる。

また、スーパー原信は、新潟市内の各地域に店舗があり、どの子どもも一度は買い物に行った経験がある。さらに、「原信関屋店」には、毎日4000～5000人ももの客が買い物に来ることからも、子どもの追求意欲を引き出すことができる。これらのことから、子どもが生活者としての自分の認識や経験を基に、スーパーの特色と自分や家族の消費生活とを関係付けてとらえることができる単元である。

## 3 本単元で目指す姿とその姿にするための創造的思考力

本単元では、スーパーの一番の特色である品揃えの工夫に、消費者である自分や自分の家族の立場から気付かせることを通して、**スーパーの特色（品揃えの工夫）を自分の生活と関係付けてとらえる子どもの姿**を目指す。

前述の通り、スーパーの一番の特色は、売れ行きや残量を見ながら、常に品揃えを豊富にしていることであり、このような工夫によって、消費者は自分がほしい物を選択して購入することができる。つまり、スーパーが品揃えの工夫をしているから、私たちはスーパーに行って自分がほしい物を買うことができるのである。子どもは、自分や家族の買い物調べやスーパーの見学を通して、「スーパーにはたくさん商品があるから買い物に行く」、「スーパーでは、お客さんが買物をしやすいようにいろいろな工夫や努力をしている」と、消費者の立場、販売者の立場で工夫や努力をとらえている。しかし、スーパーでは常に品揃えを豊富にするために工夫や努力をしていて、そのおかげで自分たちがほしい物を選んで買うことができるという関係性に気付くことは難しい。

そこで、本単元における創造的思考力は、「スーパーでは、たくさん商品の中から自分がほしい物を選んで買うことができる」という**生活者としての自分の認識や経験**をもち出させ、それを「売れ残りが出ても仕方ないと思って商品をたくさん出している」という**スーパーの特色（品揃えの工夫）**と結び付けてとらえていくことである。

その際、大切にしたい思考の方法は、**仮定する思考の方法**と**類推する思考の方法**である。スーパーでいろいろな種類の商品がある売り場と、ほとんど残りが無い売り場とではどちらがいいか、そ

の理由を考える際に、「もしも商品が少なかったら」、「例えば商品が多かったら」と考えることで、その理由として、生活者としての自分の認識や経験をもち出させ、仮説を立てさせる。

また、仮説の検証場面では、「みなさん（お客様）がほしい物を選んで買うことができるようにするために、売れ残りが出て仕方がないと思って売れ行きや残量を見ながら商品をたくさん出している」という事実を、原信関屋店店長さんの話（VTR）で確かめさせる。そして、最後に学習のまとめとして、思ったことや考えたことを説明させることで、生活者としての自分の認識や経験とスーパーの特色（品揃えの工夫）とを結び付けさせていく。

#### 4 指導の構想

子どもは、家族がスーパーで一番買い物をする人が多いことや、スーパー『原信関屋店』には、1日に4000～5000人もの方が買い物に来ることから、「いろいろなお店があるのに、なんで自分たち（おうちの人）やこんなにもたくさんの方がスーパーに買い物に行くのだろうか」ということを単元を貫く学習課題として設定し、『スーパーのひみつ』を探ろうと追求している。

子どもはこれまでの学習で、家の人へのインタビューや買い物調べから、家の方がスーパーで買い物をする人が多いことと、家の方がスーパーで買い物をする理由を知っている。また、スーパーの見学や店の人へのインタビューから、スーパーでは売り場や安全管理など様々な工夫をしていることや、店の方が工夫や努力をして仕事をしていることを知っている。これらのことから、子どもは、「スーパーには、いろいろな商品があるからよく買い物に行く」、「スーパーでは、お客様が買い物をしやすいようにいろいろな工夫や努力をしている」と、消費者・販売者それぞれの立場の工夫や努力をとらえている。しかし、子どもはまだ、スーパーの一番の特色である「品揃え」について、売れ残りが出て仕方がないと思って商品をたくさん出しているという事実や、それがお客様のことを考えた工夫や努力であること。そして、このような工夫や努力があるから自分や家族がいつでもほしい物を選んで買うことができるということまでとらえていない。

このような子どもに、『スーパーのひみつ』の一つとして、原信関屋店のある日の売れ残りの量（精肉・鮮魚・総菜）を表で表し、提示する。子どもは売れ残りが出たことに対して、「たくさん人が来るのに、どうして売れ残りが出たのだろうか」と感じる。

そしてさらに、毎日売れ残りが出ていることが分かる表を提示する。子どもは、「毎日売れ残りが出るのはなんでだろうか」、「たくさん人が来るのに何でたくさん売れ残るのだろうか」、「店員さんにとって、いっぱい残ると嫌だろうな」と、スーパーの売れ残りの事実に関心、疑問を感じる。

このような子どもに、店長さんの言葉として、「売れ残りが出て仕方がないと思って商品をたくさん出している」という事実を提示する。子どもは、売れ残りが出ることはよくないと思っているため、この言葉に関心、スーパーのやっていることに矛盾を感じる。そこで、子どもに店長さんの話を聞いて驚いたり、疑問に思ったりしたことを問う。このとき、子どもが何を基に疑問に感じたのかや、どのようなところに疑問を感じたのか、どうなっていると思っていたのかなど、既有的認識や生活経験を引き出しながら、驚きや疑問を焦点化していく。そして、どのような学習問題がつかれそうかを問い、「どうして残ると分かっているのに、（わざと）そんなに商品をたくさん出しているのだろうか」という学習課題を設定させる。

##### 働き掛け1

**学習課題に対する予想を発表させ、問題解決の手掛かりとなる立場や観点を整理する。**

子どもは、スーパーの見学や家の人へのインタビューなど、既有的認識や生活経験を基に、学習課題に対してスーパー（販売者）の立場とお客（消費者）の立場で予想を始める。「たくさん買ってほしいから」、「商品がなくなると売れないから」（スーパーの立場）「たくさんあればお客様が困らないから」、「もし商品が少ないと買いたい物がなくて困るから」（お客の立場）だから、売れ残りが出て仕方がないと思って商品をたくさん出しているのだろうと予想する。そこで、子どもに予想を発表させる際、子どもに立場と観点を確かめながら、スーパーとお客の立場、商品がたくさんある場合と少ない場合という観点到分類して考えを整理していく。（下図）こうすることで、子どもは、スーパーとお客の立場で商品が多い場合と少ない場合の状況を共有することができる。

《スーパーの立場》	商品が多い	《お客の立場》
○たくさん買ってほしい		○買いたい物がなくなる
○たくさん売って儲けたい		○たくさんあれば困らない
○商品がなくなってしまう		○商品が少ないと買いたいものが買えない
○なくなったら売れない		○商品が少ないと困る
	商品が少ない	

このように、スーパーとお客の立場で、商品が多い場合と少ない場合の状況が出たところで、次のように働き掛ける。

### 働き掛け2

いろいろな種類の商品がある精肉・総菜売り場の写真Aと、ほとんど商品がない精肉・総菜売り場の写真Bを提示し、学習問題についてどのようなことが言えそうかを問う。

お客の立場で商品が多い場合と少ない場合の状況を共有している子どもに、実際に売れ残りが出るほどいろいろな種類の商品が並べてある売り場（精肉・総菜）の写真Aと、商品が少ない売り場（精肉・総菜）の写真Bを提示する。子どもは、普段の生活で精肉や総菜売り場に行くため、この2つの写真を見比べ、実際に自分がその売り場にいる状況を想起し、たくさんあることのよさを考え始める。

そこで、写真Aと写真Bを見ての考えと、そう考える理由をワークシートに記述させた後、発表させる。考えを発表させる際、どうしてそのように考えたのかと予想の根拠を問うことで、子どもは、**仮定する思考の方法**を使って、**生活者としての認識や経験**をもち出し、「(Bのように)もしも商品が少なかったら、自分たち(お客)は好きな物を選ぶことができず、買いたくなくなるし買うことができない。たくさんあったら好きな物(ほしい物)を選んで買うことができる。だから、自分たち(お客)がいつでも好きな物(ほしい物)を選んで買うことができるように、売れ残りが出て**も仕方ない**と思って商品をたくさん出しているのではないだろうか」と考える。そのような子どもに、学習問題についてどのようなことが言えそうかと問う。子どもは、もち出した生活者としての自分の認識や経験から仮説を立てる。

### 働き掛け3

店長さんの話(VTR)を提示し、思ったことや考えたことを問い、本時の学習のまとめとして、分かったことや考えたこと、思ったことを説明させる。

生活者としての自分の認識や経験を基に仮説を立てた子どもに、スーパー原信関屋店の店長さんの話(VTR)を提示する。子どもは、店長さんの話から、スーパーの特色として、スーパーがお客のことを考えて、品揃えの工夫をしているという新たな情報を得て、学習問題を解決する。そのような子どもに、店長さんの話を聞いて、思ったことや考えたことを問う。子どもは、これまで基にしてきた生活者としての自分の認識や経験と、スーパーの特色との関係性に気付き、「**スーパーでは、自分たちお客がいろいろな商品の中から自分に合った(自分がほしい)物を選んで買うことができるように、売れ残りが出るくらいたくさんの商品を出している(品揃えの工夫をしている)ことが分かりました。だから、わたしたち(わたしの家族)は、いつでもスーパーでほしい物を選んで買うことができるし、よくスーパーに買い物に行くのだと思います**」と、類推する思考の方法を使って、**スーパーの特色と生活者としての自分の認識や経験とを結び付けて考え、スーパーの特色を自分の生活と関係付けてとらえる子どもの姿**となる。

## 5 指導計画 全14時間(42Q)

- 第1次 ○自分の家庭の買い物調べをしよう・・・4時間(12Q)
- 第2次 ○スーパーのひみつを探ろう・・・9時間(27Q)
- 第3次 ○我が家の買い物の工夫を調べてまとめよう・1時間(3Q)

## 6 本時の構想(本時11/14時間 45分)

### (1) ねらい

お客様のことを考えて、売れ残りが出るくらいまで品揃えを工夫しているというスーパーの特色を、自分や家族の消費生活の様子と関係付けてとらえることができる。

### (2) 主張(展開) 3Q(45分)

#### このような子どもに(C0)

- ・家庭の買い物調べから、家の人スーパーで買い物をすることが多いのは、スーパーにはいろいろな品物があるからだのとらえている。
- ・スーパーの見学や店の人へのインタビューから、スーパーでは以下のように様々な工夫や努力をしていることをとらえている。  
(買い物をしやすい売り場・陳列・表示の工夫/新鮮な商品を売る工夫/いろいろな商品を揃える工夫/値引きの工夫(タイムセール)/ユニバーサルデザインの工夫/レジ・袋詰め工夫/広告の工夫/売れ行きをチェックしている/安全管理を考えて調理している/お客様を待たせないように・買い物しやすいようにしている/お客様に笑顔で礼儀正しく接している)
- ・スーパーでは、毎日売れ残りが出ていることや、売れ残りが出て**も仕方ない**と思って商品をたくさん出しているという事実を知らない。
- ・スーパーがお客様のことを考えて、品揃えの工夫をしていることには気付いていない。
- ・スーパーが品揃えの工夫をしていることで、自分や家族がほしい物を選んで買うことができるとは考えていない。

### このように働き掛けると【問いを生む働き掛け】

- ※資料1『原信関屋店のある日の売れ残りの量（総菜・精肉・鮮魚）』を提示する。
- 説明「みんなはこれまで、スーパーのひみつを探ろうと学習してきましたね」  
「ところで、先生はスーパーのある事実を知ってしまいました」  
指示「この表（資料1）を見てください。数字は原信関屋店のある日の何かを表しています」
- ※品目→数字→タイトルの順で、マスキングを外していく  
説明「実はこの数字は、ある日の原信関屋店の売れ残りの量を表しています」  
発問「みんなはこのことについてどう思いますか」  
説明「この表だけはある1日のことしか分かりませんね。きっとみんなは他の日はどうだったか知りたいですね」
- ※資料2『原信関屋店の1週間の売れ残りの量（総菜・精肉・鮮魚）』を提示する。
- 発問「みんなはこの表を見てどう思いますか」  
説明「そうですね。このことについて店長さんはどう思っているのでしょうか。先生が店長さんにインタビューしてきました。店長さんの話を聞いてみましょう」
- ※店長さんの話をVTRで流す。

「表を見て分かるように、この店では毎日売れ残りが出ています。何を隠そう、わたしの店では総菜も肉も魚も、いつも売れ残りが出るのは仕方ないと思って、商品をたくさん出しているんです」

- 指示「驚いたことや疑問に思ったことを発表しましょう」  
※補助発問：「どうしてそう思ったのですか」「どうなっていると思ったのですか」と理由を問う。
- ※子どもの驚きや疑問を黒板に記す。  
発問「みんなの疑問をまとめると、どのような学習問題がつかれそうですか」
- 指示「学習問題についての予想をワークシートに書きましょう」

### このようになり【問い】

- 原信関屋店の売れ残りの表を見て思ったことを発表する。
  - ・えーっ、総菜も肉もなんでこんなに売れ残ったの。
  - ・休日でもたくさん人が来るのになんで。
  - ・他の日はどうだったのかな。平日はどうだったのかな。
- 原信関屋店の1週間の売れ残りの表を見て思ったことを発表する。
  - ・えーっ、こんなにいっぱい売れ残りが出ているの。
  - ・たくさん人が来るのに何でたくさん売れ残るの。
  - ・店員さんにとって、いっぱい残ると嫌だな。残ってかわいそうだな。
- 店長さんの話を聞き、学習問題をつくる。
  - ・えーっ、しょうがないと思って？わざと？
  - ・なんで残るのが分かっている、それをしょうがないと思っているのだろう。
  - ・残ってまでも、何で（わざと）そんなに商品をたくさん出したいんだろう。
- ◎ どうして残ると分かっているのに、（わざと）そんなに商品をたくさん出しているのだろうか。（学習問題）
- 学習問題についての予想をワークシートに記述する。
  - ・たくさん売れると儲かるから、たくさん売れるように商品をたくさん出していると思う。
  - ・お客さんにたくさん買ってほしいから、商品をたくさん出しているのだと思う。
  - ・商品がなくなったら売れないから、なくならないように商品をたくさん出していると思う。
  - ・お客さんが買いたい物がなくなって困らないように、商品をたくさん出しているのだと思う。
  - ・商品が少ないとお客さんが買いたい物を買えないから、売れ残りが出てもしょうがないと思ってたくさん商品を出しているのだと思う。
- \* 上記のように、学習問題に正対する予想をワークシートに記述できていたら、問いをもてたと判断する。

### ここから本時

#### このように働き掛けると【働き掛け1】

- 指示「みんなは、前の時間にこのような学習問題をつくって予想をワークシートに書いていましたね。今日はまず、みんなの予想を発表してください」
- ※学習問題を書いたフリップを提示する。
- ※スーパー／お客の立場、商品がたくさんある場合／少ない場合という観点に分類して、ホワイトボードに板書する。（あらかじめ4つのブロックに区切っておく）
- ※子どもに立場と観点を確かめながら、ホワイトボードに分類して子どもの予想を書いて

いく。  
※補助説明「それは、お店の立場で多い（少ない）ときという考えですね」  
「それは、お客さんの立場で多い（少ない）ときという考えですね」  
※前時の子どもの予想を基に意図的に指名し、2つの立場と観点が出るようにする。

### このようになり (C1)

- 学習問題についての予想を発表する。
    - ・スーパーはたくさん売れば儲かるから、いつもたくさん商品を出しているのだと思います。
    - ・スーパーはお客さんにたくさん買ってほしいから、たくさん商品を出しているのだと思います。
    - ・商品が少ないと、たくさん売れたら商品がなくなってしまって売れないから、たくさん商品を出しているのだと思います。
    - ・たくさん商品があれば、お客さんが買いたい物がなくならなくて困らないから、たくさん商品を出しているのだと思います。
    - ・もしも商品が少ないと、買いたいお客さんが買えなくて困るから、たくさん商品を出しているのだと思います。
- ※お客の立場で売り場にたくさん商品が置いてあった方がよい、商品が少ないとだめだという考えが出たら、次の働き掛けを打つ。

### このように働き掛けると【働き掛け2】

- 説明「みんなは商品が多いときと少ないときのことを考えているんですね。それはこういう売り場のことですか」  
※資料4：いろいろな種類・大量の商品が置いてある精肉・総菜売り場の写真（A）と、種類が少ない・少量の商品しかない精肉・総菜売り場の写真（B）を提示・配付する。  
発問「それでは、みんなはこの2つの売り場の写真（A）（B）を見て、どのように考えますか」  
指示「写真を見て学習問題について考えたことと、そう思う理由をワークシートに書きましょう」  
指示「写真を見て考えたことと、そう思う理由を発表しましょう」  
発問「〇〇さんは、どうしてそのように考えたのですか。教えてください」  
○ 発問「みんなの考えをまとめると、学習問題についてどのようなことが言えそうですか」

### このようになり (C2)

- 2枚の売り場の写真を比較し、どちらがどのようによいか考えたことと、根拠を発表する。
  - ・ぼくは、お客さんがほしい物を選ぶように、商品をたくさん出しているのだと思います。どうしてかという、Aはいろいろな種類の肉がありますよね。例えば焼き肉をするときに、いろいろな種類の肉を食べたいですよね。でも、Bだと種類が少なくて選べないからです。
  - ・わたしは、お客さんがたくさん買うことができるようにするためだと思います。どうしてそう考えたかという、私の家は家族が多いので、たくさんほしいんですけど、もしもBだったら商品が少ないので、家族みんなの分を買うことができないからです。
  - ・ぼくは、お客さんが困らないようにするために、たくさん出しているのだと思います。どうしてかという、ぼくの家では、ステーキを食べるんですけど、もしもBのようにステーキの肉がなかったら、買えませんよね。それだと困るからです。
  - ・ぼくは昆布のおにぎりが好きなんですけど、もしもBのようにそれがなかったら買えませんよね。Aのように商品をたくさん出していれば好きな物を選んで買えるから、それでスーパーはたくさん商品を出しているのだと思います。
  - ・例えば、家族みんなのおにぎりを買おうとしたとき、Aならばいくつも買えるけど、Bだったら家族みんなの分を買えませんよね。それなら他のお店で買おうとするから、だからたくさん商品を出しているのだと思います。
- \* 「例えば～だったら」「もしも～だったら」といった話し方や、「だったら」という言葉を使って理由を説明していたら、思考の言葉を使っていたととらえ、**仮定する思考の方法**を使っていたと判断する。
- 学習問題について仮説を立てる。
  - ・(Bのように) もしも商品が少なかったら、自分たち（お客）は好きな物を選ぶことができず、買いたくなくなるし買うことができない。たくさんあったら好きな物（ほしい物）を選んで買うことができる。だから、自分たち（お客）がいつでも好きな物（ほしいもの）を選んで買うことができるようにするために、売れ残りが出ても仕方ないと思って商品をたくさん出しているのではないだろうか。

### このように働き掛けると【働き掛け3】

- 発問「みんなはこのように考えているんですね。みんなが考えたことが正しいのかどうかどうしたら確かめられそうですか」  
説明「それでは、原信関屋店の石橋店長さんに聞いてみましょう」  
※資料5：あらかじめ撮影しておいた石橋店長さんの話（VTR・資料）を提示する。

#### 【石橋店長さんの話】

みなさんはスーパーに買い物に行って、自分がほしい物が無かったらどうしますか。きっとがっかりして他のお店に買いに行こうと思いますよね。スーパーのよさは、たくさんの商品の中から、みなさんが自分に合った商品やほしい物を選んで買うことができることです。だからわたしたちは、みなさんが、ほしい物が無いと言って帰ることがないように、いつでもいくつかの種類の中からみなさんがほしい物を選んで買うことができるように、品揃えをよくすることを心掛けています。みなさんが来てくれることを考えたら、多少売れ残りが出ても仕方ありません。そのために、いつも売れ行きや残っている量をチェックして、商品が少なければすぐに作って売り場に出すなど、売り方を変えているんです。また、売れ残りが多くなりそうなときは、値引きシールを貼って、みなさんに選んでもらえるように工夫しています。

発問「店長さんの話を聞いて、みんなはどう思いましたか」

説明「みんなはこのような学習問題をつくって、いろいろなことを考えてきましたね」  
※学習問題を指して確認する。

- 指示「今日の学習のまとめとして、分かったことや考えたこと、思ったことをワークシートに書きましょう」

### このようになる（Cn）

- 店長さんの話を聞き、仮説を確かめる。
    - ・やっぱりわたしたちが考えたように、わたしたちが好きな物を選んで買うことができるようにしてくれていたんだ。スーパーってすごいな。
    - ・わたしたちが好きな物を選んで買うことができるように、たくさん商品を出してくれていて、とてもうれしい。
    - ・買い物に行くわたしたちのことを考えて品揃えを工夫してくれてありがたいな。
    - ・スーパーが売れ残りが出ても仕方ないと思って商品をたくさん出してくれているおかげで、わたしたちはいつも好きな物を選んで買えるんだ。
    - ・やっぱりスーパーに買い物に行きたいな。
  - 学習問題について分かったことや考えたこと、思ったことを説明する。
    - ・スーパーでは、わたしたち（お客）がいろいろな商品の中から自分がほしい（自分が好きな）物を選んで買うことができるように、売れ残りが出ても仕方ないと思ってたくさんの商品を出していることが分かりました。そのために、いつも売れ行きや残っている量をチェックしながら売り方を変えて工夫をしていることが分かりました。だから、わたしたち（わたしの家族）は、いつでもスーパーで自分がほしい（好きな）物を（選んで）買うことができるし、だからよくスーパーに買い物に行くのだと思います。
- \*「だから」や「～から」を使って、生活者としての自分の認識や経験とスーパーの特色とをつなげて説明していたら、**類推する思考の方法**を使っていたと判断する。

## 7 検証

### (1) 検証すること

- ① 想定した思考の方法を促す働き掛けにより、生活者としての自分の認識や経験をもち出させることができたか。
- ② 想定した思考の方法を促す働き掛けにより、スーパーの品揃えの特色と生活者としての自分の認識や経験とを結び付けて目指す姿になったか。

### (2) 検証の方法

- ① 働き掛け2を受けて、.....のように、仮定する思考の方法を使って、生活者としての自分の認識や経験をもち出して、~~~~~のように考えることができたかを、ワークシートの記述や発言から検証する。
- ② 働き掛け3を受けて、類推する思考の方法を使って、~~~~~のような、スーパーの品揃えの特色と、\_\_\_\_\_のような、生活者としての自分の認識や経験とを結び付けて考えることができたかを、ワークシートの記述から検証する。

※上記①②の両方の発言や記述があれば表れありと判断する。

